



青葉の笛だより

第24号

平成30年3月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

お大師様は「仏は忍辱の鎧、精進の甲をもって、持戒の馬に乗り、定の弓、恵の箭をもって、外には魔王の軍を摧き、内には煩惱の賊を滅す。ゆえに仏と称するなり」とおっしゃっています。これは、「仏陀は忍辱の鎧をつけ、精進の甲を被り、持戒の馬に乗り、落ち着いた心の弓を持ち、智慧の矢をつがえ、外に向かっては悪魔の軍勢を撃破し、内に向かっては煩惱の賊を摧滅したので仏陀と呼ばれるのだ」という意味です。

諸行無常という言葉は、「平家物語」の冒頭があまりにも有名なので、栄えある者が衰退したり、元氣な人が急に亡くなるなど、悪い方向に向かうことと思っている人が多いのですが、この世のあらゆるものは絶えず生じては滅しているものであり、同じ状態に留まるものはないという事なので、悪い方から良い方へ向かうのも諸行無常なのです。だからこそ苦しい時もあるし、それを脱して希望を持って生きていく喜びもあるのです。

お釈迦様はこの諸行無常の世界で、一人の人間として悩み苦しんだ末に出家されました。そして苦行を続ける中から、悟りを求める菩薩として精進され、修行が実って仏となりました。この菩薩の実践すべき修行が六波羅蜜なのです。それは見返りを求めない施しの布施。戒めを持つ持戒。耐え忍ぶことの忍辱。他の五つの徳目を努力し実践し続ける精進。精神を集中し落ち着いた心の禪定。以上の五つの徳目を正しい方向に導く英知の智慧のことです。

この六波羅蜜の行が、一つの言葉の意味だけをとらえた、単なる徳目や道徳にならないように、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧を結び付けて考え、それを実践しなければ完成した行ではないということなのです。

難しいと思われるでしょうが、お釈迦様もお大師様も、諸行無常の世界では迷い易く、悩み苦しみの深い私たちだからこそ、仏になり得る可能性があるとおっしゃっているのです。安心して失敗しながら六波羅蜜の行に励んでまいりましょう。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

十三まいり

来る四月七日(土)午後一時より、須磨寺本坊書院において、十三まいりの法要を厳修いたします。十三まいりとは、**数え年の十三歳**、つまり生まれた年の干支が初めて巡ってくる年に虚空蔵菩薩に智恵と福德と健康を授けてもらいにお参りする行事で別名「智恵詣」「智恵貫」とも言います。

虚空蔵菩薩とは、広大無辺の智恵と福德をお持ちで、それを総ての人に授けようとの御誓願のもとに、この世においてになる仏様です。大人へと歩いていく子どもの成長を喜び、仏様のご加護を祈る、古くから続く日本の習わしです。
ご家族で是非お参り下さい。



記

日時

四月七日(土)

正午受付 午後一時開白

場所

須磨寺本坊 書院

御祈禱料

五千円(お一人)

お申し込み

須磨寺派各寺院と須磨寺事務所

お問合わせ

電話(〇七八)七三二—〇四一六

前日までにご予約をお願いいたします。

※法要当日にご都合のつかない方は、後日個別にお勤めをいたします。
お気軽にお問い合わせ下さい。

はなまつり

四月八日は、お釈迦さまのお誕生日です。日本全国で「はなまつり」と称して、お釈迦さまのご生誕を祝い、甘茶を誕生仏にかける灌仏会が催されます。

二千五百年以上前のインド、シヤカ族のシュッドーダナ王の妃であったマヤー夫人は、ある夜白い象が降りてきて自分の右わき腹の中に入る夢をみました。その後懐妊され、里帰りする旅の途中、ルンビニという場所でお釈迦さまをお産みになりました。お釈迦さまは、マヤー夫人の右脇から生まれ、七歩あるいて立ち止まり、右手を天に向け、左手を大地に向け、「天上天下唯我独尊」とおっしゃったといわれています。お釈迦さまの誕生を喜び、世界中の花が咲き誇り、甘露の雨が降ったといわれています。これが有名なお釈迦さま誕生の伝説です。この故事により、四月八日には花御堂の中に、誕生仏をお祀りし、甘茶をかける灌仏会が行われるようになりました。

「天上天下唯我独尊」とは、広い世界で自分が一番尊いという意味になりますが、それはお釈迦さまの命だけでなく、他の人々や動物、草木など、生きとし生けるもののすべての命が平等に尊いことを意味しています。生命尊重を意味するこの言葉こそ仏教の根本精神なのです。

須磨寺では、四月六日から八日まで灌仏会を行います。是非お参り下さい。



須磨寺 はなまつり (灌仏会)

日時 四月六日(金)から八日(日) 午前八時半から午後三時まで
場所 須磨寺 宝物館前 休憩所

貞照寺地鎮祭、瓦料寄進のお願い。

◆ 貞照寺地鎮祭 ◆

去る一月二十三日（火）午前十一時より、小池弘三貫主御導師のもと、工事関係者が参列し、貞照寺新本堂の建設無魔成満を祈念する地鎮祭が執り行われました。

この度解体した貞照寺の旧本堂は、元々蓮生院の客殿として建てられたお堂で、震災から二十三年経過し、老朽化が進み、この度新本堂を建立することとなりました。それに伴い貞照寺周辺も整備することとなりました。参拝者の皆様にはご迷惑をお掛けすることと存じますが、須磨寺の新たな祈りと憩いの場となるよう、関係者一同精進して参りますので、ご理解とご助力をよろしくお願いいたします。



◆ 瓦料寄進のお願い ◆

貞照寺新本堂は、平成三十年四月頃より工事を始め、平成三十一年夏頃完成予定です。

つきましては瓦料の御寄進をお願い申し上げます。

● 一枚三〇〇〇円

（何枚でも申し込みいただけます。）

● 氏名、年齢を蓮生院にて瓦に記載いたします。

● 受付締め切りは、

平成三〇年八月末日まで。

● 蓮生院寺務所にて受け付けます。

第三十七回 須磨大茶会

普段着で気軽にご参加いただけるお茶会「須磨大茶会」が、今年も四月二十九日（日）に開催されます。須磨寺本坊席と寿楼席の二席がございます。

また同時開催で須磨寺書院にて一絃須磨琴演奏会も行われます。青葉がまぶしい須磨の春を、是非お楽しみ下さい。

日時 四月二十九日（日）

午前九時から午後四時まで（終席受付は午後三時）

場所 須磨寺本坊・須磨温泉 寿楼二階金波の間

主催 須磨大茶会運営協議会

席料 二千二百円（二席分、前売り券は二千円）

※須磨寺にて前売りのお茶券購入できます。

同時開催

一絃須磨琴 演奏会

午前 十時三十分

午後 十二時三十分

午後 二時三十分

場所 須磨寺書院



いろはまつり

今年も神戸真言宗連合会主催のもと、六月十五日(金)に三宮国際会館「こくさいホール」にて、いろはまつりが開催されます。

いろはまつりは、お大師さん・弘法大師空海さまのお生まれになった六月十五日に、ご誕生をお祝いする法会です。当日は法要式典だけでなく、御詠歌や稚児行列、記念講演、お坊さんによる演劇などが行われます。

どなたでもお参りいただけますので、皆様お誘い合わせの上ご来場いただき、心安らぐひとときをお過ごし下さい。

先着二千名様に記念品をお配りいたします。

日時 六月十五日(金) (午前九時～午後四時)

場所 三宮・神戸国際会館

「こくさいホール」(三宮そごう南側)

料金 入場無料

お次第

午前九時

奉讃詠歌舞踊大会

午後十二時三十分

式典 法要(稚児行列)

午後二時

記念講演 露の團姫さん

午後三時

演劇 劇団あじのこ

※劇団あじのこには、朝倉経義(正覚院副住職)、小池陽人(本坊副住職)も出演しております。

※第一部奉讃詠歌舞踊大会には、須磨寺御詠歌講が出仕いたします。



須磨寺御詠歌講



劇団あじのこ

恋愛を成就、良縁を結んで くださる仏様 愛染明王

正覚院副住職 朝倉 経義

須磨寺塔頭正覚院の本堂には、御本尊様として愛染明王をお祀りしています。

愛染明王は弘法大師空海が中国から日本に伝えた明王の一つです。唯説かれていた経典は「瑜祇経」で、平安時代のはじめ、中国から密教を持ち帰った弘法大師の「御请来目録」に書かれています。

サンスクリット語では「ラーガ」と呼ばれ、その意味は大きな愛、愛着で愛染の名もそこから付けられています。

お姿は二面六臂像がオーソドックスな形ですが、三面像や四臂像、二つの顔を持つ両頭愛染像などがあり、かなり変化に富んでいます。特徴の一つは赤色が多用されていることで、明王の体、光背の丸い日輪、水瓶の上の蓮台など全て赤色で表現されています。この赤色は煩惱、とくに愛欲の激しさを表しているといわれています。

蓮華、宝珠などいろいろな持物や飾りのうち、共通しているのは頭に付いた獅子冠と手に持っている弓矢です。とくに弓と矢はキューピットと同じ愛を表現しています。

愛染明王の本来の教えは、「煩惱即菩提」煩惱がそのまま仏の真理に繋がっているといわれています。

一般的には恋愛を成就させてくださる仏様、良縁を結んでくださる仏様として信仰されています。人間関係が希薄な現代だからこそ、我々が大切にしなければいけない、教えを内包している仏様と言えるでしょう。

須磨寺塔頭正覚院の御本尊愛染明王は秘仏で御開帳しておりませんが、高さ一・八メートル、一木造りの御前仏がお祀りされています。きつと、ご参拝された方々の願い事を成就させてくださいます。皆様のご参拝を心よりお待ちしております。

